

国際シンポジウム 「砂漠とともに生きる - 乾燥地科学と現場での取り組み」

日時： 2006年8月25日（金） 正午～午後6時
場所： UNハウス（国連大学）3階 ウ・タント国際会議場
主催： 国連砂漠化対処条約事務局(UNCCD)、国際連合大学(UNU)、鳥取大学乾燥地研究センター(TU-ALRC)、東京大学サステナビリティ学連携研究機構(IR3S)、環境省(MOE)、国際協力機構(JICA)、国際農林水産業研究センター(JIRCAS)、緑資源機構(J-Green)
後援： 日本学術会議(SCJ)、外務省(MOFA)、農林水産省(MAFF)、日本沙漠学会(JAALS)、持続的開発のための農林水産国際研究フォーラム(J-FARD)
協力： (財)地球・人間環境フォーラム(GEF)

背景：

- 国連砂漠化対処条約発効10周年を迎えた本年、2006年は、国連により「砂漠と砂漠化に関する国際年（International Year of Deserts and Desertification: IYDD）」と定められている。
- IYDDの目的は、深刻な干ばつや砂漠化に苦しむ国、特にアフリカにおける砂漠化によって被害を受けている人々に対して、国際社会の認識を高めることである。
- 世界の乾燥地は、地表面積の40%以上を占め、そこには世界人口の3分の1にあたる20億人近くが暮らしている。
- また貧困、持続不可能な土地管理、そして気候変動は世界中で、乾燥地を砂漠へと変えており、その砂漠化がまた、貧困をさらに悪化させたり、新たな貧困を生み出したりしている。
- 乾燥地の10%から20%はすでに劣化しているとの推計もあり、特に問題が深刻なサハラ以南アフリカや南アジアでは、乾燥地の劣化が極端な貧困と飢餓の根絶にとって大きな障害となっており、環境の持続可能性確保への取り組みを危機にさらしている。
- 世界各国の政府が2015年までに達成を約束しているミレニアム開発目標の実現にも、砂漠化の進行は大きな意味合いを持っており、IYDDはまた、世界の砂漠の持つ脆弱な美と独特の遺産をたたえる機会ともなる。その独特の自然生息地には多様な生物相がみられ、世界の最古の文明の発祥地でもある。

本シンポジウムについて：

- 2004年5月に催された国際会議を継承するもので、乾燥地分野における国際的な研究交流や活動の交流を深めること、およびこれまでの研究・実践の成果をレビューし、今後の方向性を考えることを目的に、この分野でご活躍中の専門家の方々に、砂漠に住む人々がいかに砂漠と共存しより良い生活が送れるかを討議。（プログラム別添）
- 尚、8月27日（日）～28日（月）には鳥取県民文化会館にて、「乾燥地科学と砂漠化対処に関する国際会議」が行われます。HP: <http://www.alrc.tottori-u.ac.jp/iydd/>
- 本シンポジウム申し込みおよび問い合わせ先：
財団法人 地球・人間環境フォーラム内 IYDD 記念国際シンポジウム事務局
電話：03-3592-9735 ファックス：03-3592-9737（担当：地崎剛）
eメール：iydd@nifty.com HP: <http://www.alrc.tottori-u.ac.jp/iydd/> 申込締切：8月16日（水）
- 日英同時通訳付
- 参加費無料。定員300名
- 本会議は国連大学ホームページ上でウェブキャスト予定。
<http://c3.unu.edu/unuvideo/>（後日参照も可）
- 尚、当日同会場にて、午前9時30分～午前11時まで、ハタミ元イラン大統領による、第13回ウ・タント記念講演を行います。参加ご希望の方は、別途、
<http://www.unu.edu/hq/japanese/UThant/UThant-j.html> をご参照ください。

取材ご希望の方は、8月24日（木）までに、国連大学広報部、担当：谷野（やの）（TEL:03-3499-2811、03-5467-1311、FAX: 03-3406-7346; e-mail: media@unu.edu）までご連絡ください。

国際シンポジウム「砂漠とともに生きる 乾燥地科学と現場での取り組み」

プログラム(敬称略)

12:00-12:20 開会の辞

ハマ・アルバ・ディアロ(国際連合砂漠化対処条約 事務局長)
橋本 岳(衆議院議員 故橋本龍太郎(IYDD 名誉広報官、元内閣総理大臣)代理)
黒川 清(日本学術会議 会長)

12:20-13:50 基調講演

マハムード・モハメド・バシール・エルソル(国際乾燥地農業研究センター(シリア) 所長)
王 涛(中国科学院寒区乾区環境・工程研究所(中国) 所長)
ユバ・ソコナ(サハラ・サヘル観測所(チュニジア) 所長)
ハンス・ファン・ヒンケル(国際連合大学 学長)

13:50-14:20 休憩

14:20-16:05 パネルディスカッション1 砂漠化対処における乾燥地科学の役割

パネリスト

ザファー・アディール(水・環境・保健に関する国際ネットワーク(カナダ) 所長)
恒川篤史(鳥取大学乾燥地研究センター センター長)
武内和彦(東京大学サステナビリティ学連携研究機構 副機構長)
ホシーン・ハッテリ(乾燥地域研究所(チュニジア) 所長)
史 培軍(北京師範大学(中国) 副学長)
バリール・シャピロ(国際半乾燥地熱帯作物研究所(インド) 部長)
モデレーター: 稲永 忍(国際農林水産業研究センター 理事長)

16:05-17:50 パネル・ディスカッション2 砂漠化に対する現場での取り組み

パネリスト

ピエトロ・ラウレアノ(伝統的知識に関する研究センター(イタリア) 所長)
杉本記久恵(NGO HUMAN NETWORK 副代表)
石田紀郎(京都大学 名誉教授)
清水直也(緑資源機構 海外事業部調査設計課長)
北中真人(国際協力機構・農村開発部 第三グループ長)
幸田シャーミン(国際連合広報センター 所長)
モデレーター: 小堀 巖(国際連合大学 上席学術顧問)

17:50-18:00 閉会の辞

安井 至(国際連合大学 副学長)